

子育て子育て支援制度が大きく変わろうとしている。だからこそよりいっそう、専門職のプロとしての力量が問われている。なぜなら、どんなに制度が変わろうとも、子どもと保護者を支える原点は、あたたかな人の手と空間、すなわち専門職と支援チーム、そして子どもが過ごす環境だからである。

私たちは一貫して、専門職が**プロ魂**と**プロ技**を発揮するしかけを実践から学び、活用してきた。どんな時でも「**子どもと保護者の最善の利益を守る**」ために最大の努力を尽くす、プロ魂に基づく取り組みである。そして子どもと保護者、地域の力を引き出す**エンパワメント（湧活）**の方法について、17年におよぶ追跡研究により根拠に基づくプロ技とはなにかを明らかにした。

この保育パワーアップシリーズの目的は、「**経験的な根拠**」と「**科学的な根拠**」を車の両輪として活用して、**プロに求められる「質の保証された実践技術」**を提供すること、すなわち**支援の質向上へのさらなるパワーアップ**を図ることである。

本書は「保育パワーアップ講座」の＜基礎編＞＜活用編＞に続く、＜応用編＞である。保育パワーアップ研究会では、「発達評価ツール」「育児環境評価ツール」「保育環境評価ツール」「気になる子ども支援ツール」「社会的スキル評価ツール」などを用いた子育て子育て支援の質向上のための仕組みを作ってきた。これは、全国の長時間保育に携わる保育士、園長の「**経験的な根拠**」を収積しながら研究成果に基づく根拠を加え、**実践的な知識の「科学的な根拠」**の体系である。

＜基礎編＞での基本理解、＜活用編＞での事例適用に続き、＜応用編＞では、情報化時代に求められる新しい情報活用、保護者に寄り添う子育て、当事者パートナーシップ向上に焦点をあてた。全シリーズを通じて、実践技術をホップ、ステップ、ジャンプの3ステップで確実に取得できるよう工夫したものである。

本書は、3つの柱から構成されている。

第1の柱として、**根拠に基づく実践の基本的な考え方や方法**を概説した。第1章は、「**根拠に基づく実践の基本的な考え方、支援の設計方法、実践の道具、WEBを用いた情報活用の方法**」について解説した。

第2の柱として、**根拠に基づく実践への具体的な活用例**を示した。第2章は子ども、第3章は保護者、第4章は専門職や支援機関でのエンパワメントを具体的に紹介した。事例はすべて、1)エンパワメント支援設計、2)ツールの活用と具体的な方法、3)成果とツール活用の有効性、4)ツール活用のポイント、に統一して活用しやすいよう工夫した。

第3の柱として、**根拠に基づく実践の質向上の意味と今後の展開**について論じた。

本書が、さらなる高みを目指す子育て子育て支援プロにとって、エンパワメントの推進力となれば幸いである。

保育パワーアップ研究会代表  
筑波大学教授 安梅勅江